

## 令和7年度 第2回岩見沢市まちづくり基本条例推進委員会 議事録（要旨）

### ●日時、出席者等

日時	令和7年11月19日（水） 午後4時00分～午後5時30分
会場	生涯学習センター いわなび 2階研修室6
出席委員等	委員8名
傍聴者	1名
事務局	4名

### ●議事録（要旨）

#### 1. 開会

#### 2. 委員長挨拶

#### 3. 議題

まちづくり活動のコミュニケーションツールについて

（事務局からの説明）

別紙資料1～4に基づき説明

（米内山委員長）

委員の皆さん、それぞれ意見があると思いますが、まずは機能面について、そして導入に向けた準備を進めるために、皆さんと協力していきたいと思っています。実際にやってみないとわからないことが多いので、導入にかかる費用なども含めて、まずは皆さんからご意見をいただければと思います。

（委員からの質問）

我々使う側の意見も大事ですが、行政側からの意見もお聞きしたいと思います。行政として将来、市役所からの回覧板や情報の発信など、様々なことが想定されると思いますが、行政の事務としてやりやすい、あまり負担にならずに市民に伝わる手法が今回の説明にあった3つのツールの内のどれなのか、または別の方法があるならそれが何かを教えてください。

（事務局）

あくまで担当レベルの現時点の考えですが、行政側としてツールを正式に決めていないというのが現状です。その中でも自分自身が触れているものはLINEと安心メールです。私の所属する町内会が幸町内会ですので、町内会の会員として安心メールを使わせていただいております。LINEは皆さんご存知の通り、無料なのが最大のメリットですが、ただ機能的にはあまり多くないので、やれることは限られてきます。ただ、実際の運用として町内会の回覧をやめ、LINEに切り替えている町内会もあります。また、町連のホームページに毎月の回覧物を保存しております。「回覧板が出ましたよ」というお知らせだけLINEで流してもらえれば、保存は町連のホームページで保存されております。その点は町連の事務局の立場として進めている部分ですが、現在、その

ような取り組みを行っています。

安心メールについては町内会で導入済みですが、まだ実験的なところもあります。メールの内容としては、行事予定や月1回しかないような危険ゴミの日程だとか、そのような情報が流れてきます。それはまあまあ便利かなというところですが、導入後町内会の総会をまだ行っていませんので、導入した後に会議の流れがどうなるのか、また、安心メールは階層ごとに通知を送れるので、班長や役員には一般会員とは別の通知が来たりしているのかなと思います。一般会員に来るのは行事の通知、子供神輿や、ゴミゼロの日についての案内ですので、まだ「すごく使いやすい」といった評価をする段階ではないです。

「いちのいち」は触れないのでわかりません。行政として使用するツールをまだ決めかねているというか、特に「このツールを使う」というのはまだないです。LINEは町内会で実験的に進めていると思っていただいて構いません。うちの町内会としても今後も安心メールを使用し続けるようなことではありません。ですので、様々なものを試しながら、本当にいいものを見つけていく。という段階です。ただ、行政として「このツールを使う」と決めて導入する方法もありますので、そこも含めて事務局の立場と市役所の立場で検討させていただいております。

(委員の意見)

LINEはLINEグループでしょうか、それとも公式LINEでしょうか。

(事務局)

私たちまちづくり出前講座で、町会・自治会で講座を行いますが、小規模なところで仲のいいグループはグループLINEの方が使いやすいと思います。しかし、保護者会やPTAなど「いつもは会わないけど、年1、2回ぐらい会って活動するような団体」になると、オープンチャットの方が相性がいいのかなと思います。実際に町会・自治会でグループLINEを選択される町会とオープンチャットを選択される町会は、規模よりも相性で選んでいる場合が多いです。

正直なところ規模が大きいと公式アカウントでもいいと思いますが、そこまでの規模で導入はありません。

(委員の意見)

こちらからの情報を一方的に流し、あとは個人からの問い合わせを受けるのでしたら、LINE公式アカウントですよね。

(事務局)

LINE公式アカウントの仕組みは一方方向性ではなく、返信いただいた方には、相手から直接その人と個人的にやり取りを進められる仕組みになっております。逆にご返信いただけない方とはいつまでも繋がれないです。公式アカウントは「ただ登録している人」と「リアクションがある人」と2種類で使い方が分かれてきます。ただその代わり、月のメッセージの送付件数が200件を超えると有料になりますので、オープンチャットと違うところはそこになると思います。

(委員の意見)

LINEグループだとZoomを開かなくてもビデオ通話ができるのでちょっとした班長会議などは簡単にできると思います。Zoomだと使い方を覚えなきゃいけないため

ハードル高くなってしまおうと思います。

(委員の意見)

もし有料のアプリを使うとなった場合は、そのお金はどこが出すのですか。

(事務局)

契約した町内会が支払う場合や、市町村によっては行政がまとめて支払う場合もあります。世帯数のカウントは「いちのいち」に関しては、世帯の数を世帯主の電話番号で紐付けできるので、紐付けした世帯数に応じて料金が決定すると記載されております。

(委員の意見)

世帯数によって料金が決まるとなると、町内会によって不平等になると思います。

(事務局)

費用負担の関係がネックになっているところでもあります。ただ、その金額が果たして安いのか高いのか。また、管理者登録を誰がするのも気になる点です。

(委員の意見)

そうするとLINE一択になってしまうのではないのでしょうか。

(事務局)

LINE だったら普段から使用しているため、使いやすいという議論もあるのかなと思います。

(委員の意見)

新しいアプリができたから「今度からこのアプリを使用します」とグループで言われ、それを登録してもそのグループでしかそのアプリを使わなくなると確認しなくなってしまう。

(事務局)

そのようなこともあるので、月一回のゴミ収集の日の通知など、定期的に来るような仕組みにしてあるのかなとは思いますが。そうすると一応月1ぐらいには来るので、「安心メールだ」ってなるように仕掛けてあるのかなと思います。

(委員の意見)

何に対して使うのかですよね。一方的に情報だけを流せばいいのか。それとも対話やコミュニケーションとして使用するのか。

(委員の意見)

「いちのいち」の機能の中に高齢者の見守りシステムがあります。連絡ツールはとても便利ですが、デジタルに慣れていない高齢者の一人暮らしの方が、より孤立してしまうのではないかと思います。ですので、例えば連絡ツールとして使うのもいいのですが、その独居の人たちを見守る形でデジタル化し、自宅で倒れた時などに家族や民生委員に通知ができるなど、そのようなこともデジタル化の中に入れてもらえると、お年寄りも安心だなと思います。

(委員の意見)

市がデジタル化を進めていく中で、デジタル化についていけない、変えられない、維持できないという人たちがいらっしゃるのでは、それに対してフォローすることが必

要になってくると思います。

(委員の意見)

私の母もガラケーに慣れていて、NTT に設定していただきボタンを押すと家族につながる設定にしております。本人はそれで覚えており、デジタル化との狭間で悩んでいる状況です。

(米内山委員長)

デジタル化に伴い取り残されてしまう人がたくさん出ると大きな問題ですよ。極端なこと言うと高齢者やデジタルが苦手な人。そのような人たちをどうフォローするのか。特に町内会の中には要支援の方がいたり、あるいは一人暮らしの高齢者がいたりというのは一つの課題ではあります。取り残された人へのフォローはやっぱり直接会う方法になると思いますので、やっぱり最後は人だと思います。

(委員の意見)

要介護・要支援の人たちは町内会で一覧がありますよね。その人たちは必ず自分の子供や親戚だとか、そういう人たちを最初の連絡先に登録しており、何かあったときだけ町会長のところに連絡する。という体制になっていると思います。民生委員の方にも同じような一覧があると思いますので、直接対象になっている人にLINE を使ってくださいと伝えても「携帯電話持ってない」とか。「自分と親族の間で連絡が着くので心配ありません」と言われる。相手もいるので、町内会としてあまり深入りできないです。

うちの町内会は16戸しかない小さい町内会ですので、今役員をしている5人がLINE を使用しております。それを一般会員の人に広げるようなこともいいかなとは思いますが、どうしてもそのようなことができない人は、個別に回覧板を届ける。それしかできないかなと。また、今後は地区協の会長とのグループLINE により、何か広がればいいかなと思いますので、来年度そのようなことを会議で話してみたいと思います。

(委員の意見)

20年前の話ですが、当時の多くの高校生は携帯電話を持っていましたが、クラスの何人かが親の判断で子供に携帯電話を持たせませんでした。そのため、クラスで集まって何かをするときに携帯電話で情報を一斉に流すと、その情報を知らない子がクラスの集まりに行けなかったことがありました。そのような置き去りになる問題が、今後デジタル化についていけない人の中でも同じように出てきてしまうのではないかと思います。

(米内山委員長)

実際、十人十色の考え方、受け方があるため、非常に難しいところはあると思いますが、やはり最後は人と人、血の通った世界だと思います。事務的に済む部分はそれでいいのですが、そうではない部分を常に考えるという気持ちで対応していかなければならないと思います。

(委員の意見)

例えば市として、来年度ぐらいから町内会の役員だけでもいいから LINE だとか、何かのアプリを使ってデジタル化を始めてもらいたい。という考えはありますか。

(米内山委員長)

デジタル化を進めたいという希望があればその場所に行って、力を貸します。という体制にあります。そのような案内も各町内会に回覧されていると思います。

(委員の意見)

今デジタル化を始めて、覚えられる人は覚えていただき、そのままやり方を継続していけば年齢を重ねた後もきっと使用できると思います。要支援などの問題が出てくるかもしれませんが、ぜひデジタル化は進めていくべき議案だと思います。そして、デジタル化についていけない人に対しどのようにフォローしていくのかを決めることがこの会で考えていくことだと思います。

私の所属する町内会では老人クラブが盛んで、行事の出欠はグループ LINE を使用しています。ですので、おそらく役員の中ではもう既に LINE を使用していると思います。ただ、グループ LINE で何か発言する場合はみんなに見られる中で自分の意見を言うことになるため、なかなか厳しいのかな。と思ったりしますが、使い方によっては便利なものだと思いますし、ぜひ進めていただけた方がいいかなと思っております。

(委員の意見)

私自身、スマホの操作が苦手で、LINE の入力欄が消えたり、電話に出られなかったりと、画面が変わるたびに操作がわからなくなる不安を感じています。機種変更やアップデートで画面が変わると慣れるまで大変で、デジタルが苦手な人にとっては大きな負担になっております。

町内会では各専門部と役員の方たちの連絡手段で LINE を使用していますが、その中でも高齢の人や操作が苦手な人の中には、携帯を子供との連絡手段でしか使用していない方もいらっしゃいます。そのため、回覧板をすべてデジタル化することは困難だと感じており、紙とデジタルを併用できればいいのですが、全てデジタルになった場合、ついていけないと町内会を抜ける方もいらっしゃるのではないかと不安を感じております。

(委員の意見)

長沼町では、防災ラジオでお悔やみの情報が流れてきたりします。ラジオであれば高齢者宅にあるので、ラジオで町内会の情報を流すことができれば有効活用になると思います。

(事務局)

どういったらデジタルに慣れていただけたらと思いますか。なお、マニュアルを整備するのでしたら LINE を使用することが前提になると思います。

(委員の意見)

LINE はやはり使いやすいですが、「いちのいち」の機能の一つである「高齢者見守

り機能」のシステムで例えば、時間になれば何かアプリを押すなどで安否が確認できれば、またはアップルウォッチのような何かあったときに連絡がいく機能があればいいと思います。

(委員の意見)

ただ、その安否の確認は町内会ではなく、家族ですべきではないかと思います。

(事務局)

今回の国勢調査において、倒れている人を発見した調査員がいました。国勢調査はかなりデジタルになりましたが、このように直接訪問するというアナログなやり方によって救える命も完全なデジタル化により救えなくなる場合も考えられます。

(委員の意見)

昔みたいに町内会に全員が入っているわけではありません。新しく町内会に引越してきて、町内会に入らなかった場合、災害や何かがあったときに助け合うことができません。最終的には「人と人」だと思います。

(委員の意見)

まずは、町内会の負担軽減のためにもデジタルを使用することを前提に話を進めるべきで、生じた課題はデジタル化を進める中で問題を解決すべきではないかと思います。

(委員の意見)

ただ、急にデジタル化を進めた場合、置き去りになる人がいることも想定されるため、その人たちへのフォローは必要だと思います。

## 5. 閉会